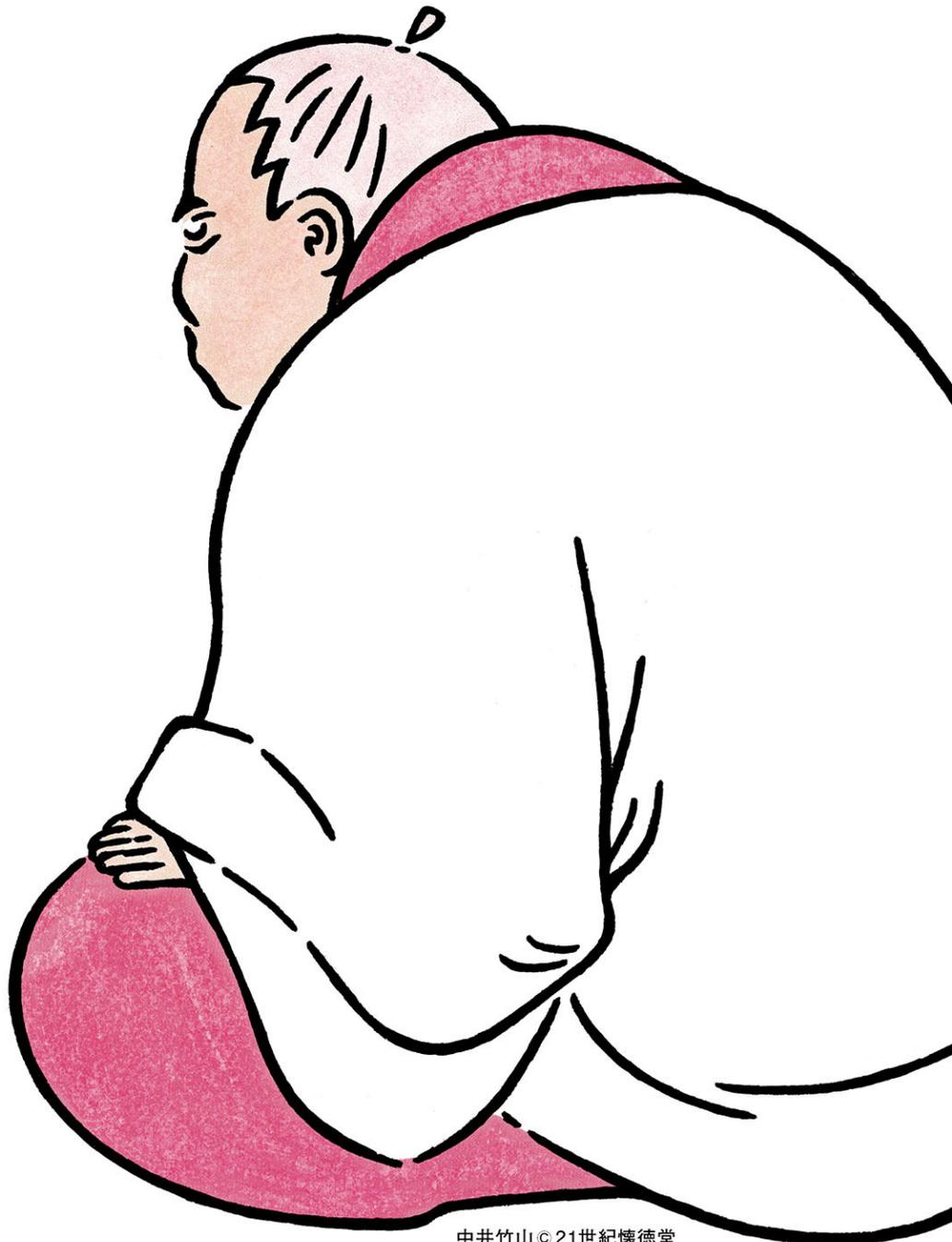


大阪大学  
21世紀懷徳堂  
活動報告書 2025

21  
世紀懷徳堂



目次

21世紀懐徳堂とは ..... 02

社学共創プロジェクト

- 大阪大学公開講座 ..... 03
- 大阪大学公開講座 受講者アンケート ..... 04
- クリエイティブアイランド中之島 ..... 05
- 中之島パビリオンフェスティバル 2025 ..... 07
- 「中之島宣言」「中之島ロングテーブル」 ..... 08
- 大阪アジア映画祭連携企画 シンポジウム ..... 09
- 阪大ワニカフェ ..... 10
- 生涯学習講座（箕面市立船場生涯学習センター） ..... 11
- 地域×学生プロジェクト ..... 12

社学共創を支える取り組み

- ウェブサイトの運用・活用 ..... 13
- 広報実績 ..... 14
- アウトリーチ活動支援 ..... 15
- 21世紀懐徳堂スタジオの利用状況 ..... 16

21世紀懐徳堂とは

大阪大学の精神的源流は2つあります。ひとつが緒方洪庵の「適塾」であり、もうひとつが、大坂の商人たちが身分の枠を超えて学問を通じ自己研鑽することをめざして1724年に創設した学問所である「懐徳堂」です。「21世紀懐徳堂」は、懐徳堂の志を受け継ぎ、市民と共に学ぶ場、知のネットワークの拠点となるべく2008年に創設されました。

大阪大学は、教育研究活動の成果を大学から社会に還元するとともに、社会と共に考える中で新たな課題を発見し教育研究の場に持ち帰り、さらなる社会の発展に貢献する成果を生み出すことをめざしています。この循環の輪を指標として活動する大阪大学において、21世紀懐徳堂は懐徳堂の精神を現代に活かし、地域、社会及び市民と大学とを結ぶアウトリーチ活動を通じて社学共創の輪を広げ、支援する役割を果たす組織です。



# 大阪大学公開講座

## 活動概要

大阪大学公開講座は、1968年に「開放講座」として開始されて以来、大学の知を社会にひらく中核的アウトリーチ事業として継続してきた。2025年度は第57回として開催し、大阪大学21世紀懐徳堂が担う社会学共創活動の主要事業として位置づけられた。

本年度は、大阪・関西万博が3月から10月にかけて開催されたことを踏まえ、社会全体の関心動向や人流への影響を考慮し、公開講座の開始時期を万博閉幕後の11月に設定した。これにより、講座内容への集中度を高めるとともに、対面参加とオンライン参加の双方において安定した受講環境を確保した。講座は人文・社会・自然科学の多様な分野から講師を迎え、対面講義とオンデマンド配信を併用するハイブリッド形式で実施した。また、前年度に引き続き高校生以下の受講料を無料とし、若年層を含む幅広い世代に学びの機会を提供した。

## 開催概要

対象：一般・学生／高校生以下  
 定員：各回130名  
 開催日：2025年11月6日(木)・11月12日(水)・11月20日(木)  
 12月11日(木)・12月16日(火)・12月23日(火)  
 2026年1月13日(火)・1月21日(水)・1月27日(火)  
 会場：大阪大学中之島センター 10階 佐治敬三メモリアルホール  
 ※後日オンデマンド配信あり  
 受講者数：延べ999名(対面延べ756名・オンライン延べ243名)



第57回受講者募集チラシ表紙

## 成果

広報面では、前年度に採用した懐徳堂六賢人をモチーフとするパンフレットの思想的枠組みを継承しつつ、本年度は折りたたんだ状態でも六賢人が中央に配置されるよう、3つ折りのレイアウト構成および色味を再設計した。これにより、配布時・閲覧時の視認性と象徴性が高まり、講座の理念をより明確に伝えることができた。

申込時アンケートの自由記述分析からは、大阪大学中之島センター、学内関連施設、公開イベント会場、連携機関・文化施設など、重点配布拠点からの流入が多数確認され、広報戦略の有効性が裏づけられた。

その結果、各回の申込者数はほぼ定員に近い水準で推移し、受講者数は延べ999名に達した。高校生以下の参加は全体の約4分の1を占め、世代を越えた学びの場としての広がり確認された。また、受講者数の増加と広報費用の適正化により、前年度の赤字を解消し、講座全体として黒字化を達成した。



第1回は忽那賢志教授「私たちはバンデミックから何を学んだのか？」

## 課題

定員に迫る回が続いたことから、今後は会場規模やオンデマンド配信の比重、受講機会の拡張方法について検討が必要である。

高校生以下の参加拡大という成果を継続的な学びにつなげるため、次年度以降は講義内容の二次活用や他の社会学共創事業との連携を強化し、公開講座の社会的価値を中長期的に高めていくことが求められる。一方で、高校生の全9回平均会場・オンデマンド出席率は、一般の82%に対し30%に留まり、申込数に対して実際の出席率が低いことに対する対策が必要であると考えられる。

講座をオンデマンドで再編集したデータは再度「第2期講座」に再活用して、視聴の機会を増やしながらい収益増にもつなげていきたい。



大阪・関西万博でも活躍された松崎典弥教授

# 大阪大学公開講座 受講者アンケート

## 調査概要

2025年11月6日から2026年1月27日にかけて、21世紀懐徳堂が実施した第57回大阪大学公開講座(全9回)の受講者を対象にアンケート調査を実施した。当日は会場にてアンケート用紙を配布し、講義終了後に回収した。また、ウェブ上にアンケートフォームを設置し、アーカイブ動画の視聴期間終了時まで回答を受け付けた。受講者延べ999名のうち721名から回答を得た。アンケートの回収率は約72%であり、昨年度の回収率(44%)と比較して大幅に増加した。

## 【アンケート結果の一部】

### ■ 年代・職業

「20代未満」および「高校生以下」の参加が昨年度と比べてそれぞれ2%増加した。受講者からは、「志望校を決める段階で受講できて良い機会となった」「進路選択に役立った」といった意見が寄せられ、進学を検討する若年層にとって有益な機会となっていることがうかがえる。

### ■ 居住地

対面参加した受講者のうち約80%が大阪府在住であり、残りの約20%は兵庫県を中心とした近畿地方の居住者であった。一方、オンライン参加者については、全体の約3分の1が近畿地方以外の地域からの参加であった。

### ■ 開催情報を得た経緯

開催情報の入手経路については、チラシ、21世紀懐徳堂のメールマガジン、ウェブサイトの順に多く、紙媒体とオンライン媒体の双方が機能していることが確認された。

### ■ 受講動機

「教養を高めたい」という回答が最も多かった。自由記述では、「退職してようやく勉強する時間ができた」「いくつになっても学べるのが嬉しい」といった意見も多く寄せられ、生涯学習への関心の高さがうかがえる(図1)。

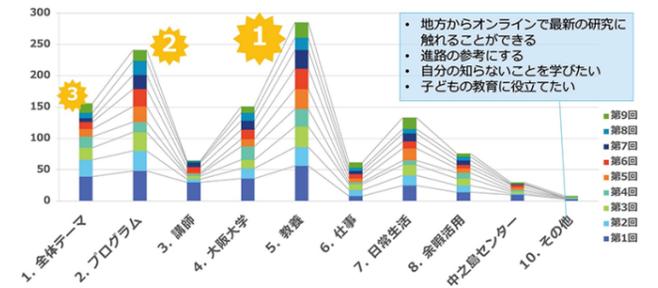


図1 受講の動機について

### ■ プログラムでよかった点

講義の内容に応じて、「最先端の研究について学べた」「身の回りの社会課題に対する解決のヒントが得られた」「大学の講義の雰囲気味わえた」の3点がプログラムの良かった点として多く挙げられた(図2)。

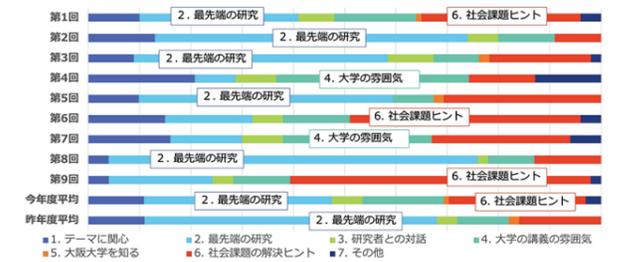


図2 プログラムでよかった点について

### ■ プログラムに対する満足度・理解度

プログラムに対する満足度(図3)および理解度(図4)はいずれも約90%となっており、受講者から概ね高い評価を得た。一方で、「マイクの音声がかえりにくい」といった開催環境に関する指摘も一部見られたため、次年度の開催に向けて改善を図りたい。

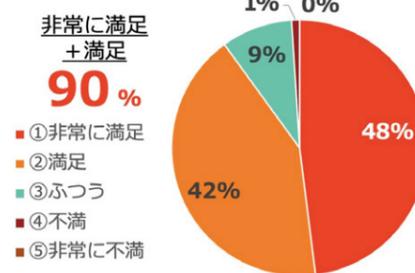


図3 プログラムの満足度

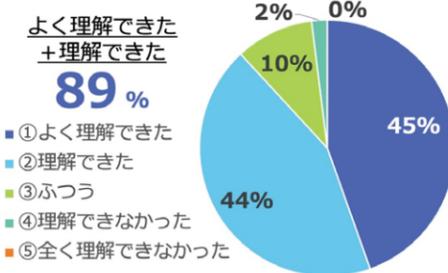


図4 プログラムの理解度

# クリエイティブアイランド中之島

## 活動概要

水都大阪を象徴する中之島は、多様な文化施設が集積し、歴史的建造物や高層ビル、水辺環境や公園などが共存し、パリのシテ島、ベルリンのムゼウムスインゼルに類する世界的な都市空間である。「クリエイティブアイランド中之島」は、文化施設、企業、大学等13機関による国内最大規模の創造ネットワークとして2019年度に組織し、定期的に議論を重ね、中長期的な将来ビジョンに基づき、2020年度より事業始動している。主には中之島全体をユニークベニュー「創造的な実験島」として、さまざまな企画や都市格向上に資する活動を展開している。2024年度からは文化庁日本博事業に採択され、2025年大阪・関西万博を機にシンボル事業「中之島パビリオンフェスティバル」を実施する。

## クリエイティブアイランド中之島実行委員会 構成団体

大阪府立国際会議場、大阪市中央公会堂、大阪市立科学館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪大学・京阪ホールディングス(アートエリアB1)、大阪中之島美術館、graf、国立国際美術館、こども本の森 中之島、中之島香雪美術館、中之島まちみらい協議会、フェスティバルホール  
 実行委員長 竹村景子(大阪大学理事・副学長21世紀懐徳堂学主)

## 【2025年度の主な活動概要】

- 年1回の実行委員会、月1回の企画会議、月数回ミーティング
- 2024年度から継続の文化庁日本博事業、各種企画立案と実施
- 「中之島パビリオンフェスティバル2025」、コア期間企画の実施
- パンフレット制作、国内外広報展開とwebリニューアル
- 複数機関との共催、協力事業等によるネットワーク拡充 等々



特製ブックレット表紙・裏表紙  
 中之島の文化施設や建造物と川を島の形に構成

期 間：2025年4月1日(火)～2026年3月31日(火) [コア期間:2025年9月～11月]

会 場：大阪市北区中之島全域 (大阪大学中之島センターほか、公園・川など含む)

実施主体 主 催：クリエイティブアイランド中之島実行委員会、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁

共 催：中之島パビリオンフェスティバル2025 実行委員会

委 託：令和7年度日本博2.0 事業(委託型) ※各企画における主催、共催、特別協力は別途

詳細参照：webサイト <https://nakanoshimalab.jp/> レポート掲載 <https://note.com/nakanoshima>

## 【主催事業】(企画名称・実施場所・実施期間・参加者数など)

### ■ミュージアム5館を巡る周遊バス制作販売 504枚

1期：5月19日(月)～5月23日(金)

2期：6月28日(土)～8月24日(日)

3期：9月3日(水)～9月30日(火)

### ●周遊バスインフォメーションセンターの設置

6月28日(土)～11月24日(月)

### ●映像展示「ビルダーズ:工事記録にみる都市再考」

9月27日(土)～11月30日(日)

### ●特製中之島ブックレット「大阪の中の島へ」制作配布

5月10日(土)～2月12日(木)

### ■『中之島15の場所での物語』AR挿絵公募

7月10日(木)～8月25日(月) 応募数260件

●こども本の森 中之島 ワークショップ 8月4日(月)5日(火)6日(水)

●大阪府立国際会議場 おえかきイベント 8月25日(月)

●大阪市立中之島小中一貫校8年生との取り組み 夏休み期間



特製ブックレット



AR体験画面  
 (大阪大学中之島センター、科学館)



AR挿絵公募ワークショップの様子

## ■コア期間プログラム 総数642名

●フェスティバルホール音響体験スペシャルツアー 5月19日(月) 213名

●国立国際美術館×大阪大学トークプログラム『非常の常』を生きる私たち』 9月27日(土) 42名

●第3回シンポジウム「中之島宣言-中之島から橋を架けよう-」 10月8日(水) 159名

●ARでめぐる『中之島15の場所での物語』アーティストと歩く中之島ツアー&トーク 10月26日(日) 16名

●クルーズ企画「RADIO CRUISE 中之島-歴史・建築・アートをめぐる小旅行」 11月1日(土) 56名

●大阪中之島美術館×大阪市立科学館×graf

「アール・デコ100年展ツアーと同時代の意匠について語る夕べ」 11月2日(日) 13名

●ディスカッション&パーティ「NAKANOSHIMA LONG TABLE vol.0」 11月8日(土) 98名

●クルーズ企画「Radio Cruise Nakanoshima -A Journey through History Architecture and Art-」 11月15日(土) 6名

●こども本の森 中之島×graf 本の森 おとなのナイトツアー&美術と本にまつわる対話 11月15日(土) 39名



本の森 おとなのナイトツアー  
 &美術と本にまつわる対話

## 【共催・協力事業】(企画名称・実施場所・実施期間など)

●大阪エリア周遊型イベントとの連携「Osaka Art & Design 2025」 4月30日(水)～6月3日(火)

●大阪を代表するアートフェアとの連携「ART OSAKA 2025」 6月5日(木)～9日(月)

●国際映画祭との連携「ナカノシマ・シネマ・サミット～語ろう! アジア映画」 9月7日(日)

●JR西日本と西日本地域の文化事業組織との連携「Nishi Nippon ARTrail」 9月15日(月・祝)～21日(日)



Radio Cruise Nakanoshima

## 【その他】

●無料の美術館・博物館デジタルガイドアプリ「Bloomberg Connects」からの連携提案(次年度の参画予定)

●株式会社リクルートから中之島エリア魅力訴求検討のためのヒアリング訪問

●公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京から人材育成プログラム企画検討のためのヒアリング

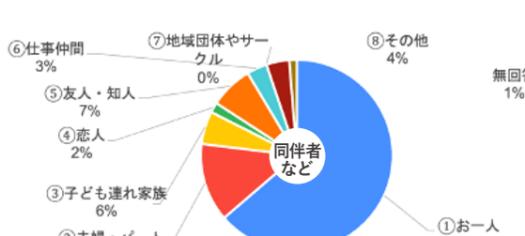
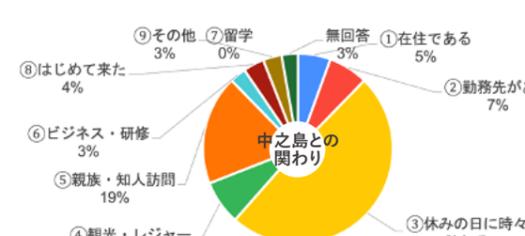
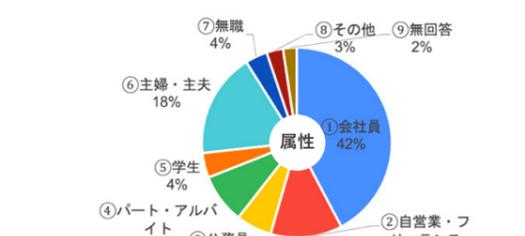
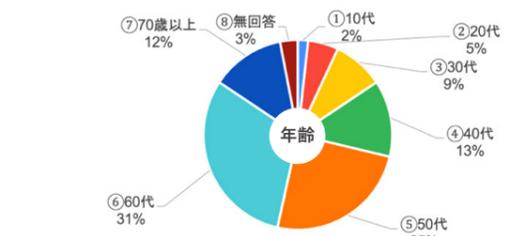
## 成果

2024年度から継続して文化庁日本博に採択されたことは、本委員会への評価と予算獲得の実績という大きな成果が得られた。学祭インバウンドをテーマにしたクリエイティブコンテンツの開発・試作・実施は、これまでの蓄積による、歴史文化等に関するプログラム開発実施へと結実した。特にクルージングやブックレット制作、15の物語などは、文化施設のみならず、観光局や宿泊・舟運事業者と次年度以降も持続可能性の高い企画が実現した。2025年の大阪・関西万博を機にしたシンボル事業「中之島パビリオンフェスティバル2025」は、企業等が多数参加するオール中之島体制によって実施し、未来ビジョン「中之島宣言」の発出とともに、組織のみならず住民やクリエイターなどの個人が参画可能な「中之島ロングテーブル」によって、より多様な人々の参加機会の創出となった。

## 課題

文化庁日本博事業は外部評価や予算拡充の成果が得られ、観光税を財源とした海外インバウンド需要を対象としており、外国人への中之島全体のエリアブランディングの課題に本格的に着手することが可能となったが、初めての試みであったため、海外・外国人向けの広報ルートの把握や方策は不十分であり、参加動員などの実績に繋げることが困難であった。本実行委員会は、国立・公立・私立の文化施設や企業等の複数組織によって構成されており、各施設や組織運営がメインであるため、社会的事業を丸となって推進することは、大変、困難であることは否めない。よって企画を検討・実現するためには、組織間の合意形成や建設的なコミュニケーションなど、相応のマネジメントを有する核となる組織体制と事務局の構築が不可欠であるが、そのための予算と人材の確保は大きな課題である。

## ■アンケート集計 コア期間プログラム参加者(230名)



# 中之島パビリオンフェスティバル2025

## 活動概要

2025年大阪・関西万博の開催地大阪が誇る「水都大阪」の“シンボルアイランド中之島”は、キタ(梅田)やミナミ(難波・心斎橋)と異なる都市機能の中核を担う重要拠点である。「中之島パビリオンフェスティバル2025(NPF)」は、中之島ブランドを世界で確立するため、“世界水準の文化施設”をパビリオンと見立て、公園水辺、公開空地と一体となって、産官学民が垣根を超えた“オール中之島で取り組む共創コンテンツ”を大阪・関西万博と同時期の春会期と秋会期に集中し、中之島の魅力を一度に体験できる機会を創出する事業である。中之島の潜在力を最大限に活かし、魅力と創造性を発信することは、大阪・関西のブランド価値を高めるとともに、日本の文化的成熟と社会変革を牽引することにつながることを目指して実施する。

※掲載情報、画像は全てNPF事業報告書より引用抜粋

## ■中之島パビリオンフェスティバル2025実行委員会 構成団体

大阪大学、朝日新聞社、朝日放送、大阪国際会議場、大阪中之島美術館、関西電力、京阪ホールディングス、国立国際美術館、ダイビル、竹中工務店、ロイヤルホテル  
 実行委員長 西尾 章治郎 (大阪大学前総長/公益財団法人国際高等研究所所長)

NAKANOSHIMA  
 PAVILION FESTIVAL 2025



プロジェクトロゴ

期 間：【春フェスティバル】2025年5月10日(土)～5月25日(日)

【秋フェスティバル】2025年9月27日(土)～10月13日(月・祝)

会 場：大阪市北区中之島全域、周辺エリア(大阪大学中之島センターほか、公園・川など含む)

実施主体 主 催：中之島パビリオンフェスティバル2025 実行委員会

共 催：クリエイティブアイランド中之島実行委員会、

独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁 委託：令和7年度日本博2.0 事業

連携組織：一般社団法人中之島まちみらい協議会

後 援：大阪府/大阪市/水都大阪コンソーシアム/関西経済連合会/大阪商工会議所/関西経済同友会

## 【主な実施企画(以下抜粋)】(実施場所・企画名称・実施期間・参加者数など)

31企画の来場者数 約54,000名

- 中之島美術館芝生公園 FANTASTIC MARKET by graf 5月10日(土)11日(日), 10月11日(土)12日(日) 5,000名
- ダイビル NAKANOSHIMA Street Music & Art 5月10日(土)～25日(日) 450名
- 水晶橋、錦橋、中之島ガーデンブリッジ 水都大阪ブリッジテラス2025 5月15日(木)～25日(日), 9月24日(水)～28日(日)ほか 2,810名
- 中之島美術館周辺デッキほか 次世代スマートモビリティRODEM・WHILL体験ツアー 5月17日(土), 9月24日(水)ほか 186名
- フェスティバルホール ヴェネツィア・フェニーチェ歌劇場合唱団 大阪特別演奏会 4月22日(火) 約2,000名
- 中之島バラ園・ばらぞの橋周辺 中之島EASTよりみちプロジェクト 水都の秋に出会う10日間 10月31日(金)～11月9日(日) 1,665名
- パビリオン連携企画としてミュージアム5館を巡る周遊パスを制作 504枚
- 点在する文化施設や開催プログラムが一目でわかるデジタルマップを制作 5月10日(土)～10月13日(月・祝) ユーザー:19,833名 閲覧数:26,731
- 大阪市役所東玄関付近他 日本初、総合設計制度下の公開空地にシェアリングモビリティを設置 5月9日(金)～10月31日(金) 約9,100回
- 八軒家浜⇄OICC、八軒家浜⇄堂島浜 水上シャトルバスとオンデマンドバス交通パスを造成 5月10日(土)11日(日), 24日(土)25日(日) 82名
- 「大カブコン展」×京阪電車 デジタルスタンプラリー 5月10日(土)～6月22日(日) 476名

※その他、多数の企画等を各所で実施



『FANTASTIC MARKET』by graf



水都大阪ブリッジテラス2025



～次世代スマートモビリティ～  
 RODEM・WHILL体験ツアー

# 「中之島宣言」「中之島ロングテーブル」

## 活動概要

オール中之島体制で取組んだシンボル事業「中之島パビリオンフェスティバル」は、単なる一過性のイベントではなく、段階的な企画プロセスとステップアップ形式によって、中之島に関する多様な世代の産官学民が中之島の将来像を社会へ提言することをも目的としている。具体的には、2024年7月キックオフシンポジウム、11月ワークショップとラウンドテーブル、2025年3月ワークショップを開催。集大成となる10月シンポジウムでは「中之島宣言 ―中之島から橋を架けよう」を世界に発信し、アクションプランを実行委員会組織から提案した。さらに中之島宣言を受けて様々な個人が開かれた場で出会い座を囲む「中之島ロングテーブル」では、創造的対話と交流が繰り広げられ、活動の種の芽吹きと持続可能な展開が期待されている。

## ■シンポジウム「中之島宣言-中之島から橋を架けよう」

10/8(水) 大阪大学中之島センター 参加者数:159名

1603年に幕を開け、葎屋敷の街として歩みを始めて以来、絶えず発展を続ける中之島の未来ビジョンを、中之島の発展の原動力となった「橋を架ける」をメインコンセプトに、中之島が六つの丁目から成ることにちなみ、六つの橋をかけて創造的な発展を未来へとつなぐ。



シンポジウム  
 「中之島宣言-中之島から橋を架けよう」

## ■六つの橋のビジョンとアクションプランの発表組織

1. 都市の魅力に橋を架ける(朝日新聞社、ダイビル)
2. 環境と人との橋を架ける(関西電力、竹中工務店)
3. グローバルな橋を架ける(大阪国際会議場、ロイヤルホテル)
4. ネットワークの橋を架ける(京阪ホールディングス)
5. 個々の生き方を豊かにする橋を架ける  
 (朝日放送グループホールディングス、大阪中之島美術館)
6. 未来社会へ橋を架ける(国立国際美術館、大阪大学)



朝日新聞社アクションプラン発表  
 「都市の魅力に橋を架ける」



国立国際美術館アクションプラン発表  
 「未来社会へ橋を架ける」

## ■ディスカッション&パーティ

「NAKANOSHIMA LONG TABLE vol.0 ―大阪を、ナカから おもしろく。中之島宣言を受けて創造的対話と交流」

11/8(土) 大阪市中央公会堂前(屋外) 98名

本事業は「中之島宣言」を受けた多様な個人が集い、対話と交流を促す“実験の場”として位置づけ実施するものである。中央公会堂前に45メートルにわたるロングテーブルを設置し、青系のドレスコードをまとったクリエイティブな人々が約10のグループに分かれてのディスカッションでは、中之島の都市空間の可能性、文化資源の活用、コミュニティ形成などについて自由な意見交換が行われた。議論の内容は後日ZINEとして発表する。都市の“ナカ”にある“島”の魅力を再認識し、未来を見据える貴重な機会となり、今後の社会・文化連携事業のネットワーク形成の好機となった。

主 催：中之島パビリオンフェスティバル2025実行委員会、クリエイティブアイランド中之島実行委員会  
 独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁

共 催：大阪大学21世紀懐徳堂

委 託：令和7年度日本博2.0事業(委託型)



ディスカッション&パーティ  
 「NAKANOSHIMA LONG TABLE vol.0」

## 成果

世界に誇るパビリオン群≒美術館等の企画展とは別に、中之島のライフスタイルを彷彿する企画、周遊性を高めるための社会実験、中之島の未来への宣言とアクションプランのシンポジウム、多様な個人の対話のロングテーブル等、31のコンテンツを造成し、その全来場者数は約54,000人に及んだ。美術館・博物館・水辺や建築美が溢れる空間で、中之島らしい創造的実験を繰り広げ、中之島ブランド醸成・波及をオール中之島で達成できたことは、大変意義深く、今後継承すべきレガシーが創出されたことは大きな成果である。

## 課題

コンテンツは必要条件でプロモーションは十分条件の関係性であるが後者は十分ではなかったため、より認知を高め、参加意欲に繋げることが課題である。個別の利害を超えた社会事業の実現と持続可能性には、未来社会への構想の共有と活動推進のための産官学民の垣根を超えた対話と共創が重要であり、その前提となる個々の組織内における本事業への参画意義や評価、理解促進が不可欠である。文化と経済は不可分な関係にあるが、双方の価値基準、つまりは質の向上と量の拡大の両輪がかみ合う施策やより一層の関係構築が課題である。

# 大阪アジア映画祭連携企画 シンポジウム

ナカノシマ・シネマ・サミット～語ろう! アジア映画 Nakanoshima Cinema Summit~ Talking films, Talking Asia!

## 活動概要

大阪アジア映画祭は、中之島地域の文化施設を舞台に、アジア全域の多様な映画を上映する国際的映画祭である。一方、大阪大学（中之島芸術センター、21世紀懐徳堂）も、クリエイティブアイランド中之島での取り組みをはじめ、文化機関や企業と連携した社学競争活動を展開してきた。両者が「中之島」という共通の地を基盤に協働した本企画は、アジア映画を入り口にゲストとともに社会や文化的背景を語り、多角的な学びと対話を促す場を創出した。

## 開催概要

テーマ：フィリピン映画が映し出すスクリーンの向こう側の現在地  
開催日時：2025年9月7日(日) 13:30~15:30

会場：大阪大学中之島芸術センター 3Fスタジオ  
共催：大阪アジア映画祭、大阪大学中之島芸術センター、大阪大学21世紀懐徳堂、クリエイティブアイランド中之島実行委員会、中之島パビリオンフェスティバル2025実行委員会  
ゲスト：ジオ・ロムンタツ(映画『サンシャイン』プロデューサー) ルイズフリーダ・ジョイ・アンジェリカ・オライ (大阪大学大学院 人文学研究科 外国学専攻 特任講師) レオ・P・カティグバク(フィルムアーキビスト)※オンライン登壇

参加者数：50名  
※日・英・タガログ語通訳あり



ナカノシマ・シネマ・サミット チラシ

## 成果

歴史的にアジアとの交易・文化交流の要所で「アジアの玄関口」と呼ばれてきた中之島で、映画祭と大学の資源(研究・教育・人材)を掛け合わせた本シンポジウムは、誰もがアクセスできるプラットフォームとして、新たな知の循環をうみだす機会となった。

映画作品そのものに加え、その内容や文化的背景について理解を深めることができたことで、映画をより一層楽しむことができたという好意的な意見が多数寄せられた。今回はフィリピンをテーマとして実施したが、今後はアジア諸国や多様な映画を取り上げた企画の実施を期待する声も見られた。また、参加者が意見や感想を共有する機会が設けられたことで、一方向的な参加にとどまらず、双方向性のある充実したシンポジウムとなった。

## 課題

告知時期をできるだけ早め、大阪アジア映画祭および学内との連携をより円滑に進める必要がある。今後は共催団体と映画祭の関連性やそれぞれの活動内容について参加者に理解を深めてもらうための説明時間を設けたい。

さらに、会場の設備を活かし、映画上映を組み込んだイベントとすることで一層の充実が期待できる。加えて、各研究科の協力を得るために、21世紀懐徳堂がプラットフォームとしての役割を積極的に果たしていくことが望まれる。



ゲストと参加者の質疑応答・ディスカッション



オンライン登壇のゲストとの記念撮影

# 阪大ワニカフェ

## 活動概要

地域の幅広い住民を対象に、大阪大学のアウトリーチ活動の一環として、サイエンスカフェの手法を発展させた「阪大ワニカフェ」を2022年12月から展開し、26年3月時点で33回を数えている。ヨーロッパで始まったサイエンスカフェは、専門家と一般の人々が科学(自然科学だけでなく、人文・社会科学も含む)について気軽に語り合う場を作ろうという試みである。カフェのような打ち解けた空間で実施することで、参加者が気軽に発言できる環境をつくること、そのもとで専門家と参加者のあいだで双方向的な対話を実現することができる。

その手法を阪大独自の「ワニカフェ」として特化し、好評をいただいている。名前の由来は、阪大の敷地で骨格が発見されたマチカネワニをモチーフにした阪大の公式マスコット「ワニ博士」に由来する。

## イベント

会場：千里文化センター「コラボ」  
大阪大学豊中キャンパス  
大阪大学東京オフィスなど  
定員：30人程度  
日時：休日の午後が多いが、今後も柔軟に開催する。

## 成果

2時間のうちゲスト(研究者)が15分程度の問題提起をすると、残りは毎回、途切れないほどの質問、意見、経験談などが寄せられ、会場はどんどん活気づいていく。アンケートでは、「自分が興味を持っている哲学と医療との連携について知見を深めることができました。ありがとうございました。」「話が分かりやすくいい雰囲気の会でした。医師が患者の目を見て診療するのは阪大から初めてください。広げて行ってください。(他の医療機関についても)」など多くの好意的な意見が寄せられた。

ゲストと参加者との対話だけでなく、グループに分かれての意見交換や、ワークショップの開催なども行っている。今年度は、医学部・附属病院による「面白い巨塔編」シリーズと「well-being編」ではお金をテーマにするなど多彩な講師で充実し、昨年度に大変好評でリクエストの多かった「臨床哲学編」も開催し、充実した取り組みとなった。

## 課題

人気が出る一方で、運営のためのマンパワーが不足していると感じている。また、同じ会場での実施が続くと、なかなか新規の参加者が増えないという現状もある。働き方改革が進めば、ゲストの依頼が難しくなる懸念もある。



阪大ワニカフェ チラシ



ゲスト(研究者)からの問題提起



ワークショップ中の様子

# 生涯学習講座（箕面市立船場生涯学習センター）

## 活動概要

箕面市船場生涯学習センターは、大阪大学が指定管理者として管理・運営している施設である。趣味、サークル活動、会議・研修、講演会などの活動の場として、貸会議室、貸スタジオ及び屋外運動場を提供している。

また、本学教員および図書館職員が登壇する講座や、子どもを対象とした講座など、市民向けの自主企画講座を実施している。

## 成果

### (1) 春の生涯学習講座

「たのしくうんどう！せんばスポチャレ☆」をテーマに、全3回の講座をみのおNEXTスポーツコミュニティパートナーズ協力のもと実施し、計31名の受講者が参加した。

### (2) 夏の生涯学習講座

謎解きミッション☆図書館棟にかくされた「ことばのカギ」を探そう！を実施し、13名の受講生が参加した。

### (3) 秋の生涯学習講座

「世界への窓：ドイツ語からみるヨーロッパ」全3回の講座を実施し、計116名の受講生が参加した。

### (4) 冬の生涯学習講座

「図書館たはいやバトル」を実施し、計17名の受講生が参加した。

### (5) 通期講座

- ・くらしの園芸教室～植物と過ごす癒しの時間～を実施し、計69名の受講生が参加した。寄せ植えワークショップでは皆さん楽しまれた様子で、先生への質問ややり取りなども多く交わされ満足度の高い内容となりました。
- ・大阪大学せんばアカデミー「伊東信弘と聴く中欧の音楽」を実施し、計36名の受講生が参加した。

## 課題

複数回にわたるシリーズ形式や通期講座は、継続的に受講することで学習内容の理解が深まり、学びの質が向上する点が評価されている。一方で、回を重ねる中で一定数の受講者が途中離脱する傾向も見られた。

今回実施した春のスポチャレおよび秋のドイツ語講座の事例から、参加人数の減少を見込んだうえで、当初の定員をやや多めに設定することが、受講者数の安定確保および円滑な講座運営に有効であると考えられる。



寄せ植えワークショップの様子



春のスポチャレの実施風景

【通期講座】船場生涯学習センターで開催する講座  
大阪大学せんばアカデミー「伊東信弘と聴く中欧の音楽」  
メイプルホールでの人気講座「中欧音楽夜話」が、「聴く」だけでなく「踊る」も楽しめる。

●定員 45名  
●場所 船場生涯学習センター 5階 会議室4B  
●持ち物 筆記用具

★全編受講で受講料 10,000円（申込締切日：4月17日（水））  
・申込みの際に「受講料」を明記してください。  
・受講料には、受講料の他に、申込手数料がかかります。また、受講料の納入が完了した時点で受講料が確定します。  
・受講料の納入が完了しないまま受講料を返金する場合は、受講料の納入が完了した時点で受講料が確定します。  
・受講料の納入が完了しないまま受講料を返金する場合は、受講料の納入が完了した時点で受講料が確定します。

日	日	内容
1	6月12日（水）	中欧の音楽（導入）
2	7月10日（水）	シューベルトの「美しい水車屋の娘」
3	8月8日（水）	シューベルトの「美しい水車屋の娘」
4	8月28日（水）	フランツ・リストと「ラプソディ」の音楽史
5	10月9日（水）	午前10時30分～正午 中欧の作曲家としてのリスト
6	11月18日（水）	バルトークと不変的な音楽
7	12月1日（水）	中欧の作曲家としてのリスト
8	1月8日（水）	作曲された音楽（リグビー）
9	2月12日（水）	クルターグの音楽
10	3月12日（水）	クルターグの音楽（続）

開催場所【船場生涯学習センター】  
〒562-0035 箕面市船場3-10-1  
TEL：072-730-5333 / mail: senba@nsho-bunka.com  
開講時間：午前9時から午後10時まで  
休講日：月曜日（休日を除く）

交通：●北大阪急行電鉄「箕面船場駅前駅」下車すぐ  
●徒歩17分（徒歩）「新船場駅」徒歩10分  
●バス：船場駅前「下船場」下車徒歩10分  
●車：船場駅前「下船場」下車徒歩10分  
●車：船場駅前「下船場」下車徒歩10分  
●車：船場駅前「下船場」下車徒歩10分

生涯学習講座 チラシ

# 地域×学生プロジェクト

## 活動概要

本プロジェクトは、地域住民や専門家、学生が分け隔てなく自由に対話する場を提供し、地域と大学を結びつけるハブとなるべく活動を行っている。今年度はアドヴァンスト・セミナー科目「地域活動と対話」を昨年度に引き続いて開講した。北摂地域の3市（吹田市・豊中市・箕面市）において中間支援や地域活動を担う団体を訪問したほか、大阪大学中之島センターにて中之島地区において大阪大学が参画する取り組みとその意義を理解し、見聞した内容やそれらに紐づく社会的課題についての意見交換や対話を行った。また、しょうない演劇部のメンバーと協力して大阪大学会館で「ひとあそび演劇ワークショップ」を実施し、地域住民と大阪大学構成員が交流する機会を提供した。

## 成果

1. アドヴァンスト・セミナー科目「地域活動と対話」は、2025年8月6日（水）・7日（木）・8日（金）の日程で開講し、中間支援や地域活動を行う団体等を訪問しながら、社会的課題やそれらの取り組み状況について意見交換や対話を行った。1日目（8/6）午前は箕面市立船場図書館、午後にはみのお市民活動センターを訪問、2日目（8/7）は豊中市市民公益活動センターの訪問後、2グループに分かれて3つの地域団体（NPO法人とよなかESDネットワーク、NPO法人ZUTTO、NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21）と意見交換、3日目（8/8）午前は、吹田市立市民公益活動センターを訪問し、地域の方々とともに当日のボランティア活動にも参画した。また、午後には大阪大学中之島センターで、21世紀懐徳堂専任教員から中之島地区における大阪大学の取り組みについてレクチャーを受けた。各日においては、一般社団法人いしばし commons の協力を得ながら、今回受け入れをいただいた関係者を交えながら受講生とともに対話と発表を行った（写真1）。本プロジェクトの趣旨を踏まえて、受講生が地域の関係者から話を聞く一方的なスタイルではなく、受講生とともに地域の関係者も他の団体を訪問しながら対話を進める形式を取っており、各参加者が課題についての新しい視点や今後の取り組みに対する気づきを得ることができた。



写真1 「地域活動と対話」の授業風景（吹田市立市民公益活動センター）

2. しょうない演劇部のメンバーと協力して「ひとあそび演劇ワークショップ このちいきに住む変わった人達あつまれ」（写真2）を大阪大学会館で2025年10月25日（土）に実施した。当日は演劇部メンバー（大人5名、中学生1名、小学生2名）、が来訪し、当日参加した本学関係者（大人2名、小学生1名）とともにアクティビティや即興の演劇づくりをおして交流を行った。このワークショップにおいて、地域の方々には大学施設や活動の一端に触れていただくとともに、大学関係者については地域に住む方々の取り組みに関心をもつきっかけを提供することができた。

地域×学生プロジェクト  
演劇ひとあそびワークショップ  
10月25日（土）開催  
参加無料  
定員10名  
大阪大学21世紀懐徳堂スタジオ

「地域×演劇」  
演劇ワークショップ  
このちいきに住む変わった人達あつまれ

【お問い合わせ】  
大阪大学21世紀懐徳堂・地域×学生プロジェクト  
mail: k21@nsho-office.osaka-u.ac.jp（担当：鎌倉）

写真2 ひとあそび演劇ワークショップのチラシ

## 課題

アドヴァンスト・セミナー科目「地域活動と対話」については、昨年に引き続き、地域の多くの関係者の協力のうえで遂行することができた。受講生に加えて関係者からも高く評価をいただいているが、得られた成果を関係者とともに検討し、受講後の学生のフォローを含めて一連のサイクルに落とし込むところまでには至っていない。2026年度も実施することから、授業の機会を通して、過去の受講生が関係者と再会する機会を設けたり、新たな受講生とのつながりを作ったりすることについて丁寧に検討していく。また、ひとあそび演劇ワークショップは、大学側担当の異動に伴って昨年度でクローズする予定であったが、今年度も実施することができた。これらの活動を通して、中長期に渡って地域との関係性を構築する上でのノウハウや活動の蓄積を行っていききたい。

# ウェブサイトの運用・活用

## 活動概要

21世紀懐徳堂では、学内のアウトリーチ活動を広く発信するため、ウェブサイトを活用した情報発信を行っている。21世紀懐徳堂の公式ウェブサイトに加え、今年度は大阪大学公開講座および中之島ロングテーブルの特設サイトを制作した。

### 21世紀懐徳堂ウェブサイトのアクセス解析

訪問者の利用デバイスや男女比など、解析可能な範囲で集計した結果は図1のとおりである。特定の属性に大きな偏りは見られず、さまざまな属性の利用者が多様な閲覧方法でウェブサイトを利用していることが確認された。また、年間のアクセス数の推移（図2）によると、公開講座の受付が開始される8月および申込締切である10月には、年間を通してアクセス数が増加する傾向が見られた。前年度のようなスマートニュース広告の出稿は行っていないものの、公開講座自体の認知が一定程度広がっていることから、効果的な情報発信が行われていると考えられる。

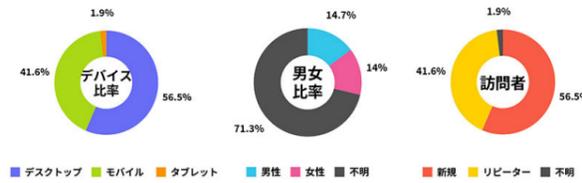


図1 21世紀懐徳堂ウェブサイトへのアクセスの状況



図2 21世紀懐徳堂ウェブサイトのアクセス数の推移

### 「大阪大学公開講座」特設サイトのアクセス解析

7月11日に一部情報を先行公開し、8月4日にウェブサイトを本公開した。媒体ごとにQRコードの遷移先URLを分けることで参照元の把握を行い、アクセス経路の分析を実施した（図3）。その結果、検索エンジンによるオーガニックサーチに加え、X（旧Twitter）経由での申し込みも確認された。今後も各イベントに合わせて継続的な情報発信を行いながら、各SNSの表示アルゴリズムや特性に応じて投稿形式を調整し、現在の運用コストを大きく変えることなく情報の到達率（インプレッション）の向上を図ることを目標とした。

セッションの参照元/メディア	9月	10月	11月	12月	前期累計
総計	197	165	139	99	563
(direct) / (none)	75	69	63	56	254
google / organic	36	29	31	14	105
qr / flyer	30	15	4	4	52
yahoo / organic	9	14	10	13	43
qr / pamphlet	14	20	5	1	39
qr / entrance_exam_mailingmagazine	14	11	6	5	36
bing / organic	4	4	4	1	13
Uco / referral	2	3	5	0	7
(not set)	1	1	6	0	8
251105 / email	0	0	2	1	3
ko-yo.net / referral	2	0	1	0	3

図3 公開講座特設サイトにおける申し込みフォームへの遷移数

### 「中之島ロングテーブル」特設サイトのアクセス解析

10月28日に一部情報を先行公開し、10月31日にウェブサイトを本公開した。11月8日に開催されたイベントであったため公開期間は非常に短かったが、Instagram、Facebook、ThreadsといったSNSからの流入が56件確認された（図4）。イベント内容とSNSの特性との親和性が高く、ウェブサイトへの誘導手段として一定の効果があったと考えられる。今後は単発のイベント告知にとどまらず、活動全体に関心を持つフォロワーの継続的な獲得につなげていきたい。

セッションの参照元/メディア	10月	11月	12月	合計
セッション数：総計	262	337	52	652
(direct) / (none)	123	157	18	297
google / organic	64	21	12	97
nakanoshimalab.jp / referral	24	27	14	65
(not set)	0	53	0	53
l.threads.com / referral	2	20	1	23
bing / organic	5	11	1	17
m.facebook.com / referral	3	12	0	15
l.instagram.com / referral	4	6	0	10
yahoo / organic	6	4	0	10
l.facebook.com / referral	8	0	0	8

図4 中之島ロングテーブル特設サイトにおける参照元別セッション数

### 未来基金ページへのリンクボタン追加

7月に21世紀懐徳堂ウェブサイトのトップページ上部に「未来基金について」の項目を新たに設置（図5・6）し、大阪大学21世紀懐徳堂支援事業のページへ円滑にアクセスできるよう導線を整備した。  
リンク先：https://www.miraikikin.osaka-u.ac.jp/project/kaitokudo

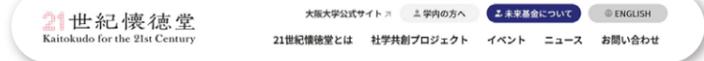


図5 ウェブサイトでの「未来基金について」のリンク



図6

# 広報実績

## 活動概要

21世紀懐徳堂では、リニューアルしたウェブサイトや21世紀懐徳堂メールマガジンの他に、SNSでのイベント等の情報発信や雑誌への情報掲載、近隣自治体の広報誌への情報提供、プレスリリースなど様々な広報活動を行い、21世紀懐徳堂の社学共創活動を支援している。

### SNS(X、Instagram)の運用

2023年よりXを、2024年からはInstagramを開始し、画像とともにイベント情報などの発信を行っている。

#### 【成果と課題】

X、Instagramともにフォロワー数が直実に増加しており、イベント情報などを地道に投稿してきた成果といえる。

2025年度の改善点としては、Xでは、投稿本文に外部リンクを直接貼るとプラットフォーム側で表示が抑制される傾向があるため、本文は内容の魅力（共感・有益性）を伝えることに特化し、詳細URLはリプライ欄（返信欄）に設置する運用に変更した。Instagramでは、興味を引くキャプションを冒頭に置き、詳細は箇条書きで整理して投稿するようにした。今後も、現在の運用コストを変えずに、情報への到達率を向上させること目指したい。



21世紀懐徳堂X



21世紀懐徳堂Instagram

### 「日経WOMAN」、「いこーよ」への情報掲載

2025年度の新たな試みとして以下の2媒体で情報を掲載した。

#### 「日経WOMAN」

日経ウーマン2025年10月号の特集「公開講座で学びを深めよう」において、「第57回大阪大学公開講座」が掲載された。特集ページ冒頭には、講座概要および昨年度の開催写真とともに本講座の情報が紹介された。実際に「日経ウーマン」をご覧になり受講された方は1名であったが、全9講義を修了された。結果として、学習意欲の高い働く女性層へ本講座の情報を届けることができたと考えられる。

#### 「いこーよ」

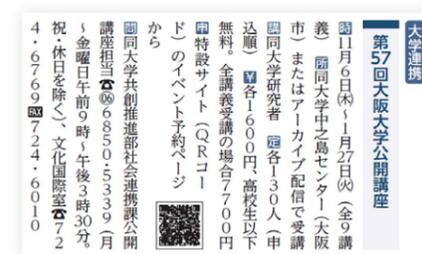
ファミリー向けおでかけ情報サイト「いこーよ」に、「第57回大阪大学公開講座」の情報を掲載した。アクセス解析の結果、当該ページの閲覧数は364回、特設サイトの閲覧数は26回であった。若年層の受講者増加を図る観点からも、次年度においても本媒体を活用した広報を積極的に実施していきたい。



日経ウーマン2025年10月号

### 近隣自治体広報誌への掲載

- 豊中市「広報とよなか」
- 阪大ワニカフェ（複数回）
- 箕面市「広報紙もみじだより」
- 大阪大学公開講座（2025年9月号）
- 阪大ワニカフェ（複数回）



箕面市「もみじだより」2025年9月号掲載の記事

### プレスリリース

- 2025年10月8日開催／10月2日リリース
- 「中之島パビリオンフェスティバル2025 第3回シンポジウム「中之島宣言—中之島から橋を架けよう—」」

## アウトリーチ活動支援

### 活動概要

研究者のアウトリーチ活動推進の一環として、21世紀懐徳堂が行っている「広報支援」、「21世紀懐徳堂スタジオ・楽屋の貸し出し」のうち、広報支援の内容は以下の通りである。

- (1) 各学部・研究科等が主催する一般の方を対象としたイベント情報の21世紀懐徳堂ウェブサイトへの掲載及びSNSへの投稿
  - (2) 「21世紀懐徳堂メールマガジン」の配信
  - (3) キャンパス内や一部モノレール駅へのチラシ配架のサポート
- その他の活動として、(4)「まちっと北摂」への投稿や、(5)「6賢人イラスト」の活用を行っている。

### 広報支援

対象：学内外の社学共創に関する取り組み

申請方法：支援依頼書を提出(21世紀懐徳堂ウェブサイト/マイハンドライからダウンロード可能)

(1) 21世紀懐徳堂ウェブサイトへのイベント情報の掲載…103件 (2026年2月12日時点)  
【成果】今年度も21世紀懐徳堂ウェブサイトにも多くのイベント情報を掲載した。「開催前・開催中・終了」や「申込不要・受付中・受付終了」等、開催や受付状況が視覚的に分かりやすいよう、アイコンで表示している。また、ウェブサイトのイベント情報に掲載したものは、XやInstagramでも投稿し、積極的に広報活動を行っている。



21世紀懐徳堂ウェブサイト イベント一覧

(2) 「21世紀懐徳堂メールマガジン」の配信…66件、登録人数…2,737名 (2026年2月9日時点)  
【成果】2025年度も多くイベントを購読者へ届けることができた。昨年度、前月と比較して配信数の振れ幅が大きいに会員数が減少している傾向にあることが判明したため、週ごとの配信数を多くても3本までとし、会員離れを防ぐ対策を行った。そのため、今年度の登録者は昨年度末の2,685名から52名増加し、2,737名となった。メールマガジンに添付するリンクや画像には、21世紀懐徳堂ウェブサイトのイベント情報へのパラメーターを設定したURLを紐づけ、ウェブサイトへの流入も促している。

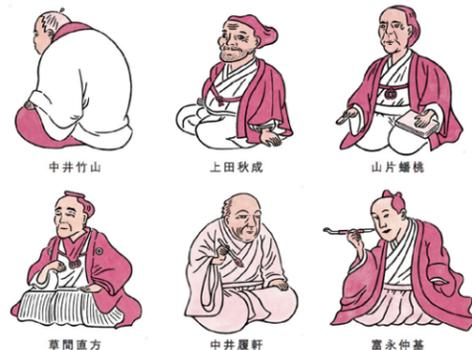
(3) キャンパス内や一部モノレール駅へのチラシ配架のサポート…47件  
【成果】広報支援依頼のあった部門を中心に、従前の配架先であるキャンパス内(大学会館玄関や総合学術博物館、各キャンパス学生センター、図書館)、医学部附属病院、歯学部附属病院、箕面船場阪大前駅、大阪モノレール千里中央駅・阪大病院前駅、千里ニュータウン情報館へ配架した。配架数も2023年度の実績である29件より18件多い結果となった。

(4) まちっと北摂への投稿  
その他の活動として、「まちっと北摂」への掲載がある。「まちっと」とは、サンケイリビング新聞社が運営する、地域の情報や住まう人のつながりでまちの暮らしを楽しみ充実したものに地域情報プラットフォームである。21世紀懐徳堂では、2023年9月から投稿をスタートし、主に21世紀懐徳堂での活動やイベント情報などを発信している。  
【成果】2025年4月から2026年2月までで14件を投稿。合計PVは4,768を獲得した。特に6月28(土)日に開催した「大阪大学夏まつり」の投稿では、1,874を獲得し、まちっと北摂全体の週間ランキングでも2位を記録し、21世紀懐徳堂の記事での初ランクインとなった。北摂地域への21世紀懐徳堂の認知度向上とイベントの周知に貢献しているといえる。



まちっと北摂 投稿画面

(5) 「6賢人イラスト」の活用  
【成果】2024年度に作成した懐徳堂縁の人物イラストについては、これまで21世紀懐徳堂のウェブサイトおよびパンフレット等において活用してきたが、2025年度は新たな試みとして学内他部局への貸出を実施した。具体的には、大阪大学人文学研究科による懐徳堂クラウドファンディング関連の広報およびギフトデザイン等に使用され、クリアフォルダ、チラシ、ウェブサイトなどの制作物に展開された。これにより、本イラストの活用範囲が学内へ広がり、懐徳堂の認知向上に寄与したと考えられる。



6賢人のイラスト

## 21世紀懐徳堂スタジオの利用状況

### 概要

21世紀懐徳堂は演劇をはじめとするパフォーマンスやトークイベントなどに学内関係者が利用可能なスタジオ(楽屋併設)を大阪大学会館1階に保有している。主催事業を行うほか、学部等が開催する社学連携事業や社学連携関連の授業などの場として提供している。

### 仕様

【21世紀懐徳堂スタジオ】  
面積：165㎡  
設備：天井吊りプロジェクター、電動式スクリーン、ODINS 無線 LAN、スポットライト



【楽屋】  
面積：83㎡  
設備：洗面台、鏡2面(テーブル・椅子)、コート用ロッカー、姿見、スタジオモニター、簡易畳、ホワイトボード、長机、椅子、折りたたみ机、ハンガーラック、移動式パーティション、看板用=木製イーゼル、L字フロアスタンド、ベルトパーテーション、ホワイトボード看板、ポスターグリップ、コルクボード



### 利用状況と課題

【利用状況】  
今年度も様々な社学連携関連事業およびイベントの活動拠点として利用された。2026年2月8日(日)の第51回衆議院議員総選挙及び第27回最高裁判所裁判官国民審査・大阪府知事選挙の「期日前投票会場」として、2月3日(火)から2月4日(水)の2日間、市民・学生が投票に訪れ、政治意識向上に貢献した。その他、部局主催イベント、劇団六風館やオ2劇場や現代芸術を考える会による演劇、大阪大学軽音学部SWINGによる音楽イベント、落語研究部によるイベント及びいちょう祭やまちかね祭でのベリーダンス等、学生によるイベントが多数開催された。年間を通し、多岐に渡るイベント会場として利用され、計2,980名が使用した(2026年1月末時点)。21世紀懐徳堂スタジオは大阪大学の社会資源として大いに活用されている。

【課題】  
今年度は、設備管理および利用後の原状回復に関する課題が明らかとなった。まず、照明設定が前利用団体により大幅に変更されたまま復元されておらず、使用開始時に照明が作動しない事象が発生した。また、空調設備は停止後に復旧したものの、その後も効きが不安定な状態が継続しており、設備性能の低下が懸念される。加えて、楽屋清掃や備品の後片付けが不十分で、テーブルの汚れ放置など管理意識のばらつきが見られる。さらに、照明機材の破損(ハロゲン電球落下)や変形機材の放置、不適切な収納(ハンガー混在、ゼラ装着放置等)など、備品管理面でも問題が確認された。

今後の対策として、従前より利用者に提出を求めている「21世紀懐徳堂スタジオ・楽屋使用前チェック表」について、原状回復確認の徹底を改めて依頼する。また、機材破損や変形の早期発見のため、スタッフによる定期点検を実施する。空調設備については老朽化の影響もあり、予算上直ちに修理が難しい状況であることから、盛夏・厳冬期には適温到達まで時間を要する点を周知し、早めの起動を呼びかける。

なお、2026年1月に設備点検を実施し、照明設備のLED化についても検討を進めている。

# 大阪大学 21世紀懷徳堂 活動報告書 2025

2026年 3月 発行

編集・発行：大阪大学21世紀懷徳堂

編集責任者：山國恭子・瀬島梨奈

制 作：NGS

 世紀懷徳堂  
Kaitokudo for the 21st Century

---

〒560-0043 豊中市待兼山町1-13 大阪大学会館 4階

TEL：06-6850-6443

[21ckaitokudo@office.osaka-u.ac.jp](mailto:21ckaitokudo@office.osaka-u.ac.jp)

---